

協議を通して見いだした改善策

視点1 体の変化を意欲的に見付けようとする活動【課題に意欲的に取り組む活動】を活性化するために（すすんで）

- より効果的な画像を選択し活用する。
シルエットの活用では、白抜き、横向き、比較の対象を変える（男女、子供と大人）などの方法を取り入れる。
- 画像だけでなく、自分のことや気づきを基に、めあてがもてるようにする。
- 付箋を利用することで、見付けたことをより明確にする。

視点2 変化について班で協力し合って話合う活動【教えるよさや友達から学ぶよさ】を活性化するために（みんなで）

- 話合いの形態や方法を工夫する。（机の向きや人数の選択）
- 話合いにホワイトボードを活用して意見を書き込んだり、付箋に書き込んだところから短冊にまとめたりする。
- 話合いの視点をより焦点化させ、男性への変化、女性への変化、共通の変化などと段階的に話し合う。
- ジャムボードなどを活用することで個人の考えがグループ内で反映されるようにする。
- 見付けたことのカードを色分けしたり、大きさを変えたりすることで区別し、子供がそれぞれの変化を視覚的に捉えられるようにする。
- 話合いの中で、見付けたことその他、知っていることなども取り入れて表示することで話合いを広げる。
- 成長での体の変化を意識できるように、発問や文末表現を工夫する。

視点3 学習の楽しさを味わいながら、自分の体の変化を肯定的に捉えられるために（たのしんで）

- 体の変化を自分事と捉えられるようにする。体の変化が自分の身に起こることとして意識付けられるように、子供から男性、女性への変化として、「～になる。」「～くる。」などの表現を使う。
- 子供たちが肯定的に捉えにくい外見的な体の変化（性毛が生える、胸がふくらむなど）を取り上げてから、肯定的に捉えられるようにする。
- 自分への言葉かけが難しい場合、悩んでいる第三者に当てる手紙を用いることでより考えやすくなる。
- 変化の対象を高学年や中学生にするとより自分事と捉えられる。

中学年分科会の授業づくりの意図を踏まえて、みんなで考えた「研究主題に迫るよりよい授業」のための「改善案」です。この中から、取捨選択して、今回の授業を改善していきます。